

<参考> 高潮浸水想定区域図作成における各種前提条件と活用

高潮による浸水の危険性に対する認識の向上や、日頃からの備えなどへの活用を目的とする基礎資料として公表しています。

高潮浸水想定区域図の各種前提条件

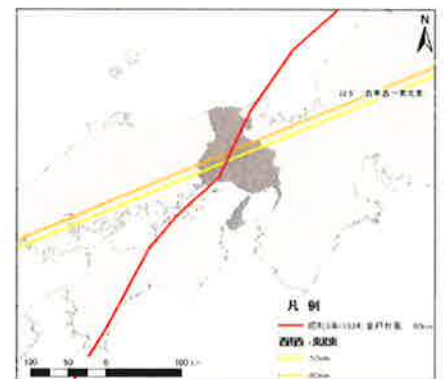
高潮浸水想定区域図は下記の想定で作成しています。

① 台風の規模

- ・ 台風の中心気圧は、我が国既往最大規模（室戸台風規模）の 910 hPa で、上陸後も勢力を維持したまま移動します。
- ・ 台風の中心から台風周辺で風速が最大となる地点までの距離は、伊勢湾台風級の 75 km としています。
- ・ 台風の移動速度は伊勢湾台風級の 73 km/h としています。

② 台風の経路

- ・ 「過去に高潮被害をもたらした既往の台風経路を平行移動する方法」と「既往台風の経路にとらわれない方位別経路を移動する方法」により、潮位偏差が最大になる3経路を選びました。



選定した台風経路

③ 河川の流量

- ・ 台風による降雨を想定し、河川流量は、河川整備基本方針で定める基本高水流量を基本とし、洪水調節施設等の現況施設を考慮した流量が流れることとしています。

④ 潮位

- ・ 台風期の朔望平均満潮位（T.P. + 0.9 m ）に、異常潮位（ 0.143 m ）を加えた高さとしています。

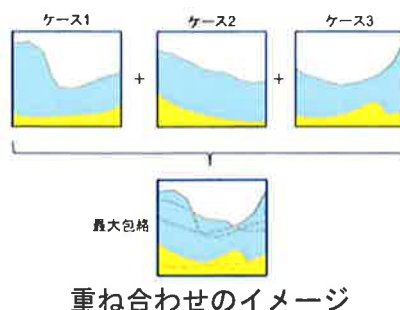
⑤ 堤防の破壊

- ・ 防潮堤等の施設は、設計条件に達した段階で破壊し、周辺地盤の高さと同様の地形となると想定しています。（水門や陸閘等も周辺の堤防等の破壊と同様に扱っています）

⑥ 算定結果の重ねあわせ

- ・ 複数経路（3経路）による算定結果を、各地点において最大となる浸水域、浸水深

が表示されるよう重ね合わせて作成しています。



⑦ 既公表の高潮浸水予測区域図との比較

- 平成 19 年度に CG ハザードマップで公表した高潮浸水予測区域図との計算条件の違いは以下のとおりです。

	今回公表する高潮浸水想定区域図	既公表の高潮浸水予測区域図
台風の中心気圧	室戸 (910hPa) ※勢力を維持	第二室戸 (925～940hPa) ※実績により弱まる
台風経路	過去に大きな潮位偏差を生じた台風の経路、方位別の想定経路を参考に平行移動した最悪コース	第二室戸を平行移動した最悪コース
台風速度	伊勢湾 (73km/h) ※一定	第二室戸 (41～54km/h) ※実績により変化
防潮堤等	設計条件超えで破壊	破壊なし
閘水門	閉鎖 (設計条件超え破壊)	閉鎖、未閉鎖 (破壊なし)
準拠マニュアル	高潮浸水想定区域図作成の手引き (H27. 7)	津波・高潮ハザードマップマニュアル (H16. 4)

高潮浸水想定区域図の活用

【内容】

「浸水想定区域図」は浸水範囲と浸水深さを示しています。

浸水深さ 0. 5 m : 1 階床高に相当 3 m : 2 階床高に相当

5 m : 一般的な家屋の 2 階が水没



【使い方 (案)】

浸水深さが大きい区域では、2 階等へ避難しても、それ以上に浸水する可能性もあることから、立ち退き避難 (水平避難) を検討してください。